

## 2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	建築・空間ストック活用小委員会	主 査 名：納村 信之 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)	委員長名：広田 直行 主 査 名：角田 誠
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、建設時の発想や最適化だけで建物、構法を捉えるのではなく、建物の利用方法やニーズの変化といった時間軸を踏まえて、建物の再生方法を研究していく。さらに、建物を取りまく住環境をどのように向上していくか、国際的に確立されたオープンビルディングの計画手法を参考に研究を展開していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期利用が可能な集合住宅及びその他の建築物の計画／設計／施工技術</li> <li>・マスハウジング期建物、及び、団地のストック活用手法と周辺エリアの住環境の再生手法</li> <li>・住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化（新築、改修とも）</li> </ul> <p>同時に CIB W104 (Open Building Implementation) の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動にも取り組む。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：納村信之 (名古屋商科大学) 幹事：田島則行 (千葉工業大学) 土井脩史 (京都橘大学) 委員：門脇耕三 (明治大学) 安達好和 ((株) アルク) 忍裕司 ((株) 竹中工務店) 村上心 (相山女学園大学) 石山央樹 (大阪市立大学) 藤原寛典 (積水ハウス (株)) 入江徹 (琉球大学) 鈴木あるの (京都大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	オープンビルディング WG (主査:南一誠):本 WG では、国内外の具体的オープンビルディング事例の収集／整理や国外からの研究者との交流を行うことを活動目的とする。具体的には、委員が関係するプロジェクトの情報、委員の国内／国外ネットワークにより得られた情報の提供を行い、小委員会と協働してオープンビルディングの計画論に沿って整理を行う。	
2019 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/">http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/</a>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	

<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3回の小委員会において、「Innovative Technologies for Sustainable and Adaptable Housing」(南委員)、「2020年ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館企画について」(門脇委員)、「日本の在来木造のタイへの輸出プロジェクト -日泰の木造構法国際比較研究の実務的展開-」(村上委員)などの建築・空間ストック活用に関する研究の話題提供と意見交換を行った。</li> <li>2. 2019年7月の小委員会において、フランス人研究者 Tiphaine Abenia 氏による講演 (Architecture after Abandonment: Learning From Open Building)、馬凌翔氏による講演 (中国無錫市惠峰新村 98~107号棟における居住履歴と住宅の経年変化に関する研究) を行ってもらい、研究交流を図った。</li> <li>3. 2019年6月に香港にて開催された CIB W104 WORLD CONGRESS 2019 に主査を含む2名の委員が参加し、セッションのモデレーターを務めるなどした。</li> </ol>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>オープンビルディング研究に関連する新しいテーマの開拓(次年度以降、ソーシャルハウジングの概念の再構築におけるオープンビルディングの可能性検討などのテーマ設定を行う予定)</p>